

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

上越教育大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	4
------	---

《本文》	5
------	---

《判定結果一覧表》	16
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

上越教育大学は、連合博士課程、修士課程、専門職学位課程及び学士課程を持ち、大学院（現職教員再教育）重点化を目指す大学であり、大学院における現職教員の再教育を行う中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標とする。

この基本的な目標を踏まえ、世界的に不安定かつ流動的な時代にあつて、我が国の伝統と文化を基盤とし、人格に優れ、問題解決の力を備えた、持続可能な社会を創造する人材を育成できる、世界最高水準の初等中等教育教員の養成を行う大学を目指す。

また、学校教育に関する理論的・実践的な研究を行い、その成果を発信するとともに、常に教育改革の世界的潮流を見据え、不断の改革に取り組み、我が国の教員養成のモデルであり続ける大学となることを目標とする。

このため、基礎力・思考力・実践力で構成される「21世紀を生き抜くための能力（汎用的能力）」を備え、かつ児童生徒に対しその能力を育成できる教員を養成する。さらに、教員として、豊かな教養、使命感、人間愛等の「+α」の資質・能力（以下：「21世紀を生き抜くための能力+α」と表記）をも備えた教員を養成するための教育課程の開発・導入を推進することとし、次のとおり第3期中期目標期間における主要目標に掲げる。

- (1) 学士課程においては、系統的な教育実習や、教科及び教職に関する多様な授業科目からなる実践的な教育課程を開発・実践し、「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成する。
- (2) 大学院においては、修士課程と専門職学位課程が協働し、より高度な「21世紀を生き抜くための能力+α」を身に付けるための教育課程を開発・実践し、現代的課題の理解と問題解決の方法を修得した、学校づくりの有力な一員となり得る教員及び地域や学校において中核的、指導的役割を果たす教員（スクールリーダー）を養成する。
特に修士課程においては、焦点化した問題の設定と解決の方策を修得した教員を養成する。一方、専門職学位課程においては、学校現場の諸課題を多面的・総合的に捉え解決する力を修得した教員を養成する。
- (3) 教育委員会や学校等と連携・協働して、地域や学校現場が抱える課題の解決に資する取り組み等を行うとともに、教員が教職生活全体を通じて学び続けるための研修拠点としての機能を強化する。
- (4) グローバルな視野を持つ人材を養成するため、カリキュラムを充実するとともに、海外協定校との連携を深め、学生交流及び学術交流を推進する。
- (5) 附属学校と大学が協働し、児童生徒等の「21世紀を生き抜くための能力」を育成する授業研究に取り組み、この成果を教育実習生の「21世紀を生き抜くための能力+α」の育成に活用するとともに、地域の学校現場に還元し、国内外に発信する。
- (6) 学校教育に係る全ての教科はもとより幼児教育、特別支援教育等を含むそれぞれの課程・領域で得られた知見・成果を踏まえた、教育委員会や教育現場との連携による、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究の取り組みなど、本学の強み・特色を活かし、教員養成の質的転換と現職教員の研修機能のさらなる強化に向けて、教育研究組織の見直しを行う。
- (7) 学長のリーダーシップの下、全学が一丸となって上記の目標達成に取り組む体制を構築するとともに、改革の進捗状況を含めた大学の運営状況を常に検証し、継続して改革に取り組むことができるようにガバナンス機能を強化する。

1. 上越教育大学は、主として初等中等教育教員に研究・研鑽の機会を提供することを趣旨とする大学院修士課程と、初等教育教員を養成する学部を持ち、学校教育に関する理論的・実践的な教育研究を推進する国立の教育大学として、1978年(昭和53年)10月1日に設置された。
2. 1996年(平成8年)4月1日、教員養成系としては初めて、本学、兵庫教育大学、鳴門教育大学及び岡山大学の4大学で構成する「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科(博士課程)」を設置した(平成31年4月に岐阜大学、滋賀大学を加え、構成大学を6大学に拡充)。
3. 2008年(平成20年)4月1日、教職大学院制度発足に合わせ、大学院学校教育研究科に、専門職学位課程(教職大学院)を設置した。教職大学院は、教職に関する精深な学識を身につけ、教育現場に生起する問題や事象について即時的に判断し、対応する力量を有する教育者を育成することを目的としている。
4. 2019年(平成31年)4月1日、学校現場における諸活動を重視した実習と理論的探究により修得される高度な教育実践力を養成するとともに、複雑かつ多岐にわたる現代的な教育課題に対応できる高度専門職業人を養成するため、教職大学院と修士課程の機能の見直しを図り、教育実践力を基盤とし、両課程の専門的な特性を活かした教育組織への改組を行った。
5. 教育委員会や学校現場から本学に寄せられた要望等を踏まえ、大学院学校教育研究科の更なる機能強化に向けて検討を進めた。これに基づき、大学院組織の見直しに係る大学改革構想を策定し、令和4年度から専門職学位課程の入学定員を170人から190人に、修士課程の入学定員を130人から20人とする設置計画について、2021年(令和3年)6月に文部科学省より設置可とされた。
6. 新潟県や東日本を中心とした国公立大学等との連携協力協定の締結を積極的に推進し(令和3年度末現在57大学)、教員養成、教育、研究等における人的・物的資源の相互活用を図るとともに、理工系等様々な分野における学問的な幅広い知識や深い理解を強みとする教員を養成する取組を整え、学校教育を広域的に支える拠点機能を充実させることを通じて、教員養成系大学・大学院の新たな使命を先駆的に果たしている。

[個性の伸長に向けた取組(★)]

- 学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を一層推進するため、教員養成の質的転換と研修機能の強化を図る。
このため、大学教員学校現場研修の推進、教員養成の質的転換を図る研究の推進、研修機能の充実を図る体制整備を図る。(関連する中期計画1-2-1-1、中期計画2-1-1-3、中期計画2-2-1-1)
- 将来にわたる新構想教育大学の使命を果たすために、東日本を中心とした教員養成系総合大学・大学院として、学校教育を広域的に支える拠点機能を充実させる。
このため、東日本を中心とした国公立大学等との連携協力協定の締結を積極的に推

進し、学問的な幅広い知識や深い理解を強みとする教員を養成する体制整備を図る。(関連する中期計画 1-1-2-2、3-1-1-7)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

- 「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するための教育課程の開発・導入

世界的に不安定かつ流動的な時代にあつて、我が国の伝統と文化を基盤とし、人格に優れ、問題解決の力を備えた、持続可能な社会を創造する人材を育成できる、世界最高水準の初等中等教育教員の養成を行う大学を目指す。

このため、基礎力・思考力・実践力で構成される「21世紀を生き抜くための能力(汎用的能力)」を備え、かつ児童生徒に対しその能力を育成できる教員を養成する。さらに、教員として、豊かな教養、使命感、人間愛等の「+ α 」の資質・能力(以下:「21世紀を生き抜くための能力+ α 」と表記)をも備えた教員を養成するための教育課程の開発・導入を推進する。(関連する中期計画 1-1-1-2)

- 教育委員会や学校現場との連携・協働による教員養成機能の強化

教育委員会や学校等と連携・協働して、地域や学校現場が抱える課題の解決に資する取組等を行うとともに、教員が教職生活全体を通じて学び続けるための研修拠点としての機能を強化する。

このため、教育委員会や学校教育現場等の関係者との緊密な意見交換を行うなどニーズを把握し、これらニーズに沿った教育研究・文化事業を実施する。(関連する中期計画 3-1-1-3、3-1-1-9)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、上越教育大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 達成している	【2】 十分に達成しているとはいえない	【1】 達成していない
I 教育に関する目標	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している			4		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している			3		
3 学生への支援に関する目標	【3】 達成している			1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			2		
II 研究に関する目標	【3】 達成している					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 達成している			1		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している			1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 上回る成果が得られている					
	なし		1			
IV その他の目標	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
教育課程、教育方法及び教育の成果 （学士課程） 初等中等教育教員の養成を中核に据え、「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成するためのカリキュラムを編成するとともに、新たな上越教育大学スタンダードを作成することにより、時代や社会の要請に応え得る深い人間理解と豊かな感性・学識、優れた教育実践力を備えた、広範な教育段階に対応できる教員を養成する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》 （優れた点） ○ 教員就職率の好成績 学士課程においては、プレイスメントプラザ（就職支援室）において、公立学校長経験者であるキャリアコーディネーター（特任教授）による学生へのきめ細かな個別指導（論作文・自己PR文の添削指導や面接指導等）を行っている。また、大学院に在学している現職教員大学院生を教員採用試験ジョブアドバイザーに委嘱し、地元自治体の教育事情、学校現場の状況及び教職への心構え等についてアドバイスを行うとともに、個別相談に対応している。これらのきめ細かな就職指導の結果、毎年度80%を超える教員就職率を達成している。（中期計画1-1-1-4）		

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 学士課程におけるアクティブ・ラーニングの推進 学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成するために、平成 28 年度に「アクティブ・ラーニングを取り入れるための方針」を策定し、取組の趣旨や国の政策文書における定義を踏まえたアクティブ・ラーニングの定義を定めている。本方針に基づき、全授業科目の 5 割以上の科目でアクティブ・ラーニングを取り入れる取組を進めており、令和元年度における学士課程のアクティブ・ラーニング導入率は 78.7%となっている。(中期計画 1-1-1-2)</p>	
<p>小項目 1-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>(大学院課程)〔修士課程〕教育現場における焦点化した問題の設定と解決の方策を修得した、高度な専門的能力を持つ多様な人材を養成する立場から、構想</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p> <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>力をを持った高度専門職業人を養成する。特に、教科及び教職に係る優れた実践的な指導力と研究能力(教科内容構成能力、教材開発能力など)を備えた教員を養成する。</p>	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 修士課程におけるアクティブ・ラーニングの推進 学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成するために、平成 28 年度に「アクティブ・ラーニングを取り入れるための方針」を策定し、取組の趣旨や国の政策文書における定義を踏まえたアクティブ・ラーニングの定義を定めている。本方針に基づき、全授業科目の 5 割以上の科目でアクティブ・ラーニングを取り入れる取組を進めており、令和元年度における修士課程のアクティブ・ラーニング導入率は 83.5%となっている。(中期計画 1-1-2-3)</p>	

小項目 1-1-3	判定		判断理由		
<p>(大学院課程)〔専門職学位課程〕学校現場の諸課題を多面的・総合的に捉え解決する力を修得した教員を養成するという立場から、即応力を持った高度専門職業人を養成する。特に、確かな指導理論と優れた応用力を備えたスクールリーダー及び学校づくりの有力な一員となり得る実践的な指導力・展開力を備えた新人教員を養成する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 		
			≪特記事項≫		
			<p>(特色ある点)</p> <p>○ 教職大学院におけるアクティブ・ラーニングの推進 学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成するために、平成28年度に「アクティブ・ラーニングを取り入れるための方針」を策定し、取組の趣旨や国の政策文書における定義を踏まえたアクティブ・ラーニングの定義を定めている。本方針に基づき、全授業科目の5割以上の科目でアクティブ・ラーニングを取り入れる取組を進めており、令和元年度における教職大学院のアクティブ・ラーニング導入率は92.1%となっている。(中期計画 1-1-3-2)</p>		
小項目 1-1-4	判定		判断理由		
<p>「21世紀を生き抜くための能力+α」の育成に向けた成績評価基準を新たに作成し、厳格な成績評価を実施する。</p>	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 		
			≪特記事項≫		
			該当なし		

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標を達成している
 (判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由	
教職員の配置 教員養成と研修機能の更なる強化・充実に向け、学校教育に関する理論的・実践的な教育研究を推進し、学校現場に密接に関連した実践的な教育を行うため、学校現場での指導経験等を持つ教員を確保する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。	
			≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 現場経験を持つ教員の増加 「学校現場での指導経験を持つ大学教員の割合を向上するための基本方針」を策定し、学校現場での指導経験を持つ大学教員の採用に努めている。その結果、平成28年度から令和元年度までの学校現場での指導経験等を持つ教員の採用者は計37名となっている。また、大学教員学校現場研修を推進するプログラムを策定し、研修修了者の数は令和元年度末までに5名となり、学校現場での指導経験等を持つ教員は大学全体で80名、割合にして49.4%となっている。(中期計画 1-2-1-1)	
小項目 1-2-2	判定		判断理由	
教育環境の整備 学生の主体的・協働的な学修を支援するため、教育環境を整備・改善する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。	
			≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、オンライン会議システムを用いたリアルタイム型授業及びe-learningシステムを用いたオンデマンド型授業によってオンライン授業を実施している。また、オンライン授業を円滑に実施するため、オンライン会	

	議システムの一括整備や操作説明会を行っているほか、各授業の実施方法を全教員に調査し、学生が各授業の実施方法を把握できるように一覧の作成・周知を行っている。	
小項目 1-2-3	判定	
教育の質の改善、教育研究システムの改善 ファカルティ・ディベロップメント活動を一層充実・促進し、授業の改善につなげる。	【3】	中期目標を達成している
	判断理由	
	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。	
	《特記事項》	
	該当なし	

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標を達成している
(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
修学面及び生活面における充実した学生生活とするために、入学から卒業・修了までの一貫した総合的な学生支援を実施する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 学生のダイバーシティに対応した指針 平成29年度に「心身の悩みや問題を抱える学生に対する支援のための教職員の対応指針」を、令和元年度に「上越教育大学における性的多様性 (SOGIE) に対する基本理念」及び「上越教育大学における性的多様性 (SOGIE) に関するガイドライン」を策定し、周知している。(中期計画 1-3-1-7)		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
(学部) 「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、新テスト「大学入学希望者学力評価テスト (仮称)」等の活用を踏まえたアドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、多面的・総合的な評価を重視した個別選抜 (大学が個別に行う入学者選抜) を実施する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	該当なし		
小項目 1-4-2	判定		判断理由
(大学院) 「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、アドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、教職に関する高度な専門性と実践的指導力の修得を目指す学生を受け入れる入学者選抜を行う。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由	
教育に関する臨床的研究とそれを支える基礎的研究並びに学校現場に密接に関連した実践的・先導的な研究機能の強化・充実を図り、国内外の教育界における研究水準をリードする拠点となることを通じて、我が国の教員養成の質的向上と学校現場の課題解決に資する役割を担うとともに、その研究成果を積極的に社会に還元する。	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 	
		≪特記事項≫		
		（特色ある点） <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育研究成果の発信 「21世紀を生き抜くための能力+α」を育成するための研究成果として上越教育大学出版会から5冊の書籍を刊行している。「21世紀を生き抜くための能力+α」育成を目指す提言書は、延べ322名の教員が執筆に関わるなど、理論と実践の集大成となっている。これらの書籍を近隣市町村の小中学校や県の教育委員会等、教育関連組織にも頒布することで、教育研究成果を発信している。（中期計画 2-1-1-3） ○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究 新型コロナウイルス感染症に対する研究成果として、『ポストコロナと教育』を出版した。執筆者20名、20本の論文を掲載し、教育大学とポストコロナとのかかわりをどのように進めていくかを検討した。また、近隣市町村の小・中学校 		

	<p>や県の教育委員会など教育関連組織にも頒布することで、積極的に教育研究成果を発信した。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、マスク着用による熱中症リスクが問題となっていることから、マスク着用時の熱放散能について研究を行っている。この研究によって得られた知見を活用し、企業と共同で運動活動時の熱中症のリスクを低減できるマスクを開発している。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 2-2-1	判定	判断理由
<p>教員養成の質的向上や学校現場など地域社会のニーズ並びに現代社会の変化に即した研究を積極的に進め、社会的要請の高い研究課題に対応する研究組織を構築するとともに、その研究支援体制を整備する。</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 道徳教育の推進</p> <p>学校教育において教科化される「特別の教科 道徳」について、学校現場の教員が子どもたちに対して多様な指導法を実践することを目指し、研修と研究を推進することを目的として、平成30年度に上越教育大学上廣道徳教育アカデミーを寄附研究部門として設置しており、学校現場に即した道徳教育の多様な指導法を実践している。平成30年度は延べ83件、令和元年度は延べ122件の講演や示範授業を行っており、東日本を中心とした道徳教育の拠点校の一つとなっている。(中期計画 2-2-1-1)</p>	

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
本学の知的・人的・物的資源を有効に活用し、我が国の教員養成の質的向上と学校現場の課題解決のために貢献するとともに、地域社会の発展への支援と様々なニーズに沿った教育研究・文化事業を実施する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学校現場のニーズに応じた出前講座の提供」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<<特記事項>> (優れた点) ○ 学校現場のニーズに応じた出前講座の提供 地域貢献事業の一環として、大学教員が地域の学校現場等からの求めに応じて依頼先へ出向き講義等を実施する出前講座を開講している。出前講座は、「ネット社会の光と影」、「チームで進める特別支援教育」、「歌唱・合唱講座」等、学校現場のニーズに応じたテーマを開設しており、令和元年度の開設数(講座実施数)は211件、受講者は2万209名に上り、大学の知を地域の学校現場等に還元する積極的な地域貢献を行っている。(中期計画3-1-1-5)		
	(特色ある点) ○ 教職員のための自主セミナーの実施 学び続ける教員を支援するため、地域の教育委員会と連携して「教職員のための自主セミナー」を実施している。自主セミナーは、学校現場が抱える課題等をテーマに設定しており、最新の知見を地域の教員に提供し、学び続ける教員の質		

	<p>的向上・課題解決を図っている。開催回数は、平成 28 年度 50 回、平成 29 年度 91 回、平成 30 年度 104 回、令和元年度 109 回と着実に増加しており、参加者アンケートにおいても、9 割以上が「教師力の向上に役立つ」と回答している。 (中期計画 3-1-1-3)</p> <p>○ 地域と連携した学校実習</p> <p>令和元年度の教職大学院の規模拡大と、修士課程の学校実習（課題研究プロジェクト）導入に伴い、学校実習を円滑に実施するため、上越市近隣 4 市の教育委員会及び校長会の協力を得て、平成 30 年に学校実習コンソーシアム上越を設立し、地域全体で学校実習を支える体制を整え、地域とともに学校が抱える教育課題の解決に向けた取組を進めており、令和元年度においては、学校支援プロジェクト及び課題研究プロジェクトに連携希望のあった 92 校と連携し学校実習を実施している。(中期計画 3-1-1-9)</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
国際的な学生交流及び学術交流の推進並びに教育研究の充実を図るとともに、学校及び地域社会等と連携し、グローバルな視野を持った人材を養成するため、「国際交流推進センター」を中心に教育研究活動を推進する。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.00 うち現況分析結果加算点 0.00	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	達成している 3.00	【3】
小項目1-1-1 教育課程、教育方法及び教育の成果 (学士課程) 初等中等教育教員の養成を中核に据え、「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成するためのカリキュラムを編成するとともに、新たな上越教育大学スタンダードを作成することにより、時代や社会の要請に応え得る深い人間理解と豊かな感性・学識、優れた教育実践力を備えた、広範な教育段階に対応できる教員を養成する。	【3】	達成している 2.50	【3】
中期計画1-1-1-1 「21世紀を生き抜くための能力+α」を備えた教員を養成するため、学生が各学年段階や卒業時までに修得すべき到達目標及び確認指標である上越教育大学スタンダードと、それに基づいた各科目の具体的達成基準であるルーブリック等を新たに作成し、それらを踏まえつつ、教育課程の編成方針及び編成基準により新カリキュラムを編成する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-2(◆) 学生の実践力や思考力を高めるための授業科目を中心に、第3期中期目標期間中に全授業科目の5割以上の科目でアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員の養成を行う。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-3 全国的な初等中等教育に対するニーズの把握を行うため教育委員会や学校教育現場等の関係者との緊密な意見交換を行うとともに、在学生及び卒業生への教育の成果・効果に関する調査等を実施し、ICT教育や英語教育の活性化、インクルーシブな教育、いじめ等の生徒指導などを学校現場で実践できるカリキュラムを編成する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-4 教員就職に向けた全学的・組織的なキャリア教育や、Institutional Research(以下:「IR」と表記)による学修成果等の分析に基づくきめ細かな就職指導により、学生の教職への意欲を高め、教員採用試験の受験率を向上させるとともに、進学者と保育士就職者を除く卒業生の教員就職率を80%以上とする。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-2 (大学院課程)[修士課程]教育現場における焦点化した問題の設定と解決の方策を修得した、高度な専門的能力を持つ多様な人材を養成する立場から、構想力を持った高度専門職業人を養成する。特に、教科及び教職に係る優れた実践的な指導力と研究能力(教科内容構成能力、教材開発能力など)を備えた教員を養成する。	【3】	達成している 2.00	【3】
中期計画1-1-2-1 修士課程においては、教科及び教職に係る優れた実践的な指導力と研究能力を備えた教員を養成するため、教育課程の編成方針及び編成基準に基づいて、実践的課題を見据えた研究指導を実施する新カリキュラムを編成する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-2-2(★) 教員養成系大学・学部以外の出身者については、学部段階での多様な学修内容を基礎として、初等中等教育の場における教科及び教職に係る実践的カリキュラムを編成し、実践的な指導力を備えた教員を養成する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-2-3 学生の実践力や思考力を高めるための授業科目を中心に、第3期中期目標期間中に全授業科目の5割以上の科目でアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員の養成を行う。	【2】	実施している	【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目 終了時 評価の 判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-1-2-4 全国的な初等中等教育に対するニーズの把握を行うため教育委員会や学校教育現場等の関係者との緊密な意見交換を行うとともに、在学生及び卒業生への教育の成果・効果に関する調査等を実施し、ICT教育や英語教育の活性化、インクルーシブな教育、いじめ等の生徒指導などを学校現場で実践できるカリキュラムを編成する。	【2】	実施している	【2】	
中期計画1-1-2-5 現職教員以外の学生に対しては、教員就職に向けた全学的・組織的なキャリア教育や、IRによる情報に基づくきめ細かな就職指導を行い、進学者及び外国人留学生を除く修了生の教員就職率を、修士課程においては75%以上、専門職学位課程においては100%とする。	【2】	実施している	【2】	
小項目1-1-3 (大学院課程)[専門職学位課程]学校現場の諸課題を多面的・総合的に捉え解決する力を修得した教員を養成するという立場から、即応力を持った高度専門職業人を養成する。特に、確かな指導理論と優れた応用力を備えたスクールリーダー及び学校づくりの有力な一員となり得る実践的な指導力・展開力を備えた新人教員を養成する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-3-1 専門職学位課程においては、確かな指導理論と優れた応用力を備えたスクールリーダー及び学校づくりの有力な一員となり得る実践的な指導力・展開力を備えた新人教員を養成するため、教育課程の編成方針及び編成基準により「学校支援プロジェクト」を中核とした新カリキュラムを編成する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-3-2 学生の実践力や思考力を高めるための授業科目を中心に、第3期中期目標期間中に全授業科目の5割以上の科目でアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員の養成を行う。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-3-3 全国的な初等中等教育に対するニーズの把握を行うため教育委員会や学校教育現場等の関係者との緊密な意見交換を行うとともに、在学生及び卒業生への教育の成果・効果に関する調査等を実施し、ICT教育や英語教育の活性化、インクルーシブな教育、いじめ等の生徒指導などを学校現場で実践できるカリキュラムを編成する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-3-4 現職教員以外の学生に対しては、教員就職に向けた全学的・組織的なキャリア教育や、IRによる情報に基づくきめ細かな就職指導を行い、進学者及び外国人留学生を除く修了生の教員就職率を、修士課程においては75%以上、専門職学位課程においては100%とする。	【2】	実施している		【2】
小項目1-1-4 「21世紀を生き抜くための能力+α」の育成に向けた成績評価基準を新たに作成し、厳格な成績評価を実施する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-4-1 「21世紀を生き抜くための能力+α」の育成に関連した上越教育大学スタンダード、ルーブリックの見直しを踏まえ、成績評価基準を新たに作成し、同基準に基づく評価手続き及び評価の体制を明確に学生に周知し、厳格な成績評価を行う。	【2】	実施している		【2】

上越教育大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-2-1 教職員の配置 教員養成と研修機能の更なる強化・充実に向け、学校教育に関する理論的・実践的な教育研究を推進し、学校現場に密接に関連した実践的な教育を行うため、学校現場での指導経験等を持つ教員を確保する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-1-1(★) 学校現場(幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校)での指導経験を持つ大学教員や本学が行う学校現場に密接に関連する実務的な研修経験を持つ大学教員の割合が、第3期中期目標期間末には約5割となるよう教員を確保する。 このため、学校現場で指導経験のない大学教員に対しては、学校教育に関する理論的研究に基づいた、学校現場に密接に関連した実践的な教育を行うため、附属学校等において学校現場の実態と課題などについて理解を深めるための実務的な研修を行う。		【2】	実施している		【2】
小項目1-2-2 教育環境の整備 学生の主体的・協働的な学修を支援するため、教育環境を整備・改善する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-2-1 アクティブ・ラーニング等の実践の場として、図書館機能を充実するとともに、教室等の教育環境やICT基盤を整備・充実する。とりわけ図書館機能については、学生がグループで協働学修を行えるグループワークスペースの設置や、教員が所蔵資料やICT基盤を活かし図書館内で講義を行える環境を整備する。		【2】	実施している		【2】
小項目1-2-3 教育の質の改善、教育研究システムの改善 ファカルティ・ディベロップメント活動を一層充実・促進し、授業の改善につなげる。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-3-1 授業の質の向上や改善を推進するため、学生による授業評価及び教員の自己評価に係る取り組みをさらに充実・促進し、段階的に全ての授業を公開するとともに、学生を交えたワークショップ形式の研修やアクティブ・ラーニングの積極的な実践に向けた研修等を毎年度実施する。		【2】	実施している		【2】
中項目1-3 学生への支援に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-3-1 修学面及び生活面における充実した学生生活とするために、入学から卒業・修了までの一貫した総合的な学生支援を実施する。		【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-3-1-1 「学生生活実態調査」及び「学生会館に関するアンケート調査」を学部学生及び大学院学生を対象に平成29年度及び平成32年度に実施し、授業、教育研究環境、学生生活や健康等に関する実態並びに学生会館の利用状況等を把握する。その結果に基づき課題とされた事項について改善し、充実した学生生活を支援する。		【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-2 学生宿舍等の居住環境の機能改善及び福利厚生事業の点検・見直しを不断に行い、キャンパスライフに関する学生の満足度を向上させる。		【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-3 学生の教員への就職を見据えた、学校でのボランティア活動等の体系化の推進や、地域における学生の自主的で多様な学びの機会を充実するとともに、これら活動を支援する体制を強化するなど、一貫した総合的な学生支援を実施する。		【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-3-1-4	学修支援に係るTA(ティーチング・アシスタント)、RA(リサーチング・アシスタント)、TS(ティーチング・サポーター)の充実などサポート機能を強化し、学生の主体的・協働的な学びを支援する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-3-1-5	附属図書館、情報メディア教育支援センターが一体となって、学術情報に関するサポート体制を構築するなど、学修支援に係るサポート機能を強化する。また、本学学生が地域の児童に読み聞かせを行う交流活動を通して学生の読書指導力の養成を図るなど、学生が主体的に学修できるプログラムを推進する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-3-1-6	障害等による特別な配慮が必要な学生に対するノートテイクなどの支援に際しては、教員として学校現場においてその経験を活かすことを考慮し、本学の学生が当該支援を行う体制を整備する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-3-1-7	全学生の定期健康診断を行うとともに学部新入生及び大学院新入生を対象にUPI(大学生精神健康調査)を実施し、身体的・精神的な問題を把握する。その結果に基づき必要に応じて面談を行い、悩みを抱えた学生や特別な配慮を必要とする学生を支援する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-3-1-8	教員採用に向けた就職指導について、入学から卒業・修了までの一貫した連続性を考慮してさらに内容を充実し、ガイダンス、採用試験対策講座、模擬試験等を実施するとともに、教員採用の全国的な動向を把握し、学生に情報提供を行う。 また、個々の学生に対して、キャリアコーディネーター(公立学校校長等の経験者)や教員採用試験ジョブアドバイザー(現職派遣学生のボランティア)による就職相談・指導を行う。 卒業生・修了生にも就職情報の提供や就職相談・指導等の支援を行う。	【2】	実施している	【2】
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	達成している	3.00
小項目1-4-1	(学部)「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」等の活用を踏まえたアドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、多面的・総合的な評価を重視した個別選抜(大学が個別に行う入学者選抜)を実施する。	【3】	達成している	2.00
中期計画1-4-1-1	「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」等の導入を踏まえたアドミッション・ポリシーの見直しを平成28年度中に行う。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-4-1-2	「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価する個別選抜方法の検討を高大接続システム改革会議における検討状況を注視しつつ、平成30年度までに行い、平成33年度入学者に係る選抜から実施する。 また、上記選抜方法の妥当性及び信頼性の検証を目的とし、入学者の追跡調査等を行う。	【2】	実施している	【2】
小項目1-4-2	(大学院)「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、アドミッション・ポリシーの見直しを行い、それに基づき、教職に関する高度な専門性と実践的指導力の修得を目指す学生を受け入れる入学者選抜を行う。	【3】	達成している	2.00
中期計画1-4-2-1	「21世紀を生き抜くための能力+ α 」を備えた教員を養成するため、アドミッション・ポリシーの見直しを平成28年度中に行う。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-4-2-2	明確な研修課題を有する現職教員及び多様な社会人経験・学修経験を有する者等の大学院入学希望者の教職に関する能力・意欲・適性等を総合的に評価する入学者選抜を行う。	【2】	実施している	【2】

上越教育大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目2 研究に関する目標	【3】	達成している	3.00 うち現況分析結果加算点 0.00	【3】
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目2-1-1 教育に関する臨床的研究とそれを支える基礎的研究並びに学校現場に密接に関連した実践的・先導的な研究機能の強化・充実を図り、国内外の教育界における研究水準をリードする拠点となることを通じて、我が国の教員養成の質的向上と学校現場の課題解決に資する役割を担うとともに、その研究成果を積極的に社会に還元する。	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画2-1-1-1 連合大学院(博士課程)を構成する大学として、現代的教育課題の解明や解決に資する臨床的研究、教育活動の基礎となる教科専門領域の国内外の先導的な研究を推進するプロジェクト研究等を実施する。また、こうした研究の際に、理論と実践の往還のため修士課程と専門職学位課程の教員の協働を推進する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-1-2 学校現場が抱えている、学力向上、コミュニティスクールやインクルーシブ教育システムなどの諸課題やニーズに対応した研究を推進するため、地域の学校教員との連携によるプロジェクト研究等を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-1-3(★) 出版会による出版物の刊行や本学のリポジトリに教育研究資料を毎年度150件以上登録する等の取り組みを通して、教育研究成果を国内外へ発信するとともに、研究成果のオープンアクセス化を推進する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目2-2-1 教員養成の質的向上や学校現場など地域社会のニーズ並びに現代社会の変化に即した研究を積極的に進め、社会的要請の高い研究課題に対応する研究組織を構築するとともに、その研究支援体制を整備する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-2-1-1(★) 現代的教育課題の解決に向けた研究を推進するため、教育委員会や学校現場等との連携体制を強化するとともに、学校現場における指導経験を有する者や教育実践に関する研究実績を有する研究者等を配置するなど、研究実施体制を強化し、支援に係る組織体制を充実する。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-2 社会的要請の高い研究や実践的・先導的な研究の推進とその研究成果の積極的な公表を支援するために、地域の学校教員や大学院生を研究協力者とするプロジェクト研究の推進や上越教育大学出版会における出版などに対し、効果的な研究資金の重点配分を行う。	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-3 教員養成の質的向上に向け、次世代を担う若手教員の研究推進に資するため、海外との研究交流や研究スペース等に配慮した研究支援を行う。また、本学の強み、特色を活かすべく「21世紀を生き抜くための能力+α」向上に係る若手教員の研究についての助成を毎年度実施する。	【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目 終了時 評価の 判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
	なし	—	—	なし
小項目3-1-1 本学の知的・人的・物的資源を有効に活用し、我が国の教員養成の質的向上と学校現場の課題解決のために貢献するとともに、地域社会の発展への支援と様々なニーズに沿った教育研究・文化事業を実施する。	【4】	優れた実績を上げている	2.40	【4】
中期計画3-1-1-1 新潟県における教員の大量退職時期を見据え、学校ミドルリーダーを育成するための調査研究事業を、教育委員会などの行政機関と連携して実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-2 新潟県教育委員会及び新潟市教育委員会と協働・連携し、「小・中学校の理科教育において中核的な役割を担う教員を養成する事業(コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラム)」を継続して実施することにより、本プログラム修了者が県内の地区理科教育センター等において、本プログラムの内容を活用して行う研修指導等の活動を支援する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-3(◆) 教育委員会との人事交流による職員が配置されている学校教育実践研究センターの特色を活かし、学校現場が抱えている課題をテーマに設定したセミナーを年間50回以上実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-4 公開講座について、大学を身近に感じてもらえるよう、学校教育に関わるテーマだけでなく市民の興味がわくようなテーマも設定し毎年15件以上実施する。また、このうち大学院の一部の授業科目を一般に開放した公開講座も実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-5 大学教員が、地域などの求めに応じ依頼先に出向いて講義等を行う出前講座について、毎年、大学教員数の50%以上の件数の講座を開講する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-6 新潟県内の国公私立大学等で設立した「教員免許状更新講習コンソーシアム新潟」の幹事校として、県内における免許状更新講習の取りまとめを行う。また、多様な免許が取得できる本学の特色を活かし、特別支援教育を含む講習を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-7(★) 近隣の大学、地方自治体、調査研究機関や産業界等との密接な連携・協働を進め、新潟県立看護大学との連携講座などを実施することにより、地域の教育や健康等に資する事業や研究を実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-8 我が国の教育・研究の振興に貢献するため創設した「辰野千壽教育賞」により、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、保育所等の教育現場における特色ある実践研究及び先進的取り組みに対し、更なる発展に向け積極的な支援を実施する。	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-9(◆) 大学院が実施する学校実習等を組織的に円滑に実施するため、上越市、妙高市、糸魚川市及び柏崎市の教育委員会及び校長会の協力を得て「学校実習コンソーシアム上越」を設立し、地域全体で学校実習等を支える体制を整備するとともに、小・中学校等が抱える課題を解消するための「学校支援プロジェクト」及び「課題研究プロジェクト」による学校実習等を、毎年度35校以上で実施する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】

上越教育大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画3-1-1-10 地域の小学校児童の、土・日曜日における学習やスポーツ、体験学習などの様々な活動を一層促進するため、学生の自主的な活動である「学びのひろば」の実施に際し、人的・物的側面から支援を充実する。	【2】	実施している	【2】	
大項目4 その他の目標	【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 国際的な学生交流及び学術交流の推進並びに教育研究の充実を図るとともに、学校及び地域社会等と連携し、グローバルな視野を持った人材を養成するため、「国際交流推進センター」を中心に教育研究活動を推進する。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画4-1-1-1(*) 「21世紀を生き抜くための能力」のうち実践力、特に持続可能な社会を意識させるために、異文化コミュニケーション能力と異文化理解マインドを持った教員を養成する。このため、英語でのコミュニケーション能力を高めるため、英語のみを使用した授業を導入するほか、海外の教育・文化の理解、語学研修などの体験型科目や小学校英語指導法等の新たな科目を開設・開講する。また、異文化を体験することを重視し、海外の教育・文化に触れる短期留学プログラムや海外協定校との交流・共同授業実践を増やす。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-2 本学の持っている教員養成の総合力、教科教育のノウハウ等を、海外協定校をはじめ世界に向けて発信するネットワークを構築し、海外で講演会、講習会などを開催する機会を教員に提供する。 また、研究者の受け入れや共同研究を積極的に推進するとともに、若手教員や実務教員をはじめ教員の海外派遣、国際研究プロジェクトや国際学会の参加などの研究交流事業をサポートする。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-3 本学で開発する「21世紀を生き抜くための能力+α」の育成のためのモデルカリキュラムについて、海外協定校と共同研究を進め、その成果を教育課程に反映する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-4 海外協定校との連携を深め、毎年度30人以上の外国人留学生を受け入れる。また、チューター制度、留学生による母語講座、留学生及び日本人学生による外国人児童生徒への修学支援などの地域社会や学校からのニーズに応じた支援事業を積極的に行うとともに、地域の特色を活かしたスキー事業などを実施し、外国人留学生と日本人学生及び地域社会との交流活動を活発にし、キャンパスの国際化を推進する。	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-1-5 日本人学生の海外派遣留学及び海外での教育研究活動を一層促進するため、上越教育大学基金による留学生奨学事業の実施や各種奨学金の案内により、経済的な支援を行う。 また留学説明会の実施や協定校アドバイザーによる協定校の情報提供を行う。さらに、海外での教育実習の履修要件化や海外の大学で履修した授業の単位化を実施する。	【2】	実施している		【2】

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。

なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。